



相模蛭ヶ嶽ノ頂上ニ達セル同行ノ一部

(木村康一撮影)

前面ノ禾本ハかりやすもどき、此邊ほそえのあざみ (*Cirsium effusum* MATSUM.) 多ク生ズ

○相模國蛭ヶ嶽附近ノ植物

久 内 清 孝

余ハ昨年十月二日三日ノ兩日横濱植物會員ト青野原村長野、焼山等ヲ經テ蛭ヶ嶽ニ飛脚旅行ヲナセリ其間ムシリ來リシモノ、内分布上多少興味アルモノヲ報ジ草ムシリ連ノ參考ニ供セント欲ス

Prunus Siori Fr. SCHM. みやまぐさぐさ

Cacalia Makinoana MAKINO. おほみぢがち

(先年松野重太郎氏丹澤山ニ採ル)

Rubus exsuecus (Fr. Et Sav.) MAKINO. くろくち

Phellodendron japonicum MAXIM. おほね

はだ (箱根ニモ産ス)

Sasa Hayatae MAKINO. みやまぐさ

(武藏高尾山ニモ産ス)

Sasa tanzawana Mak. たんざわ (新種)

Berchemia racemosa S. Et Z. var. *magna* Mak.

おほくさやなぎ

Rhamnus costata MAXIM. くろかんば

當時蛭ヶ嶽山頂ニテ農民ノ一隊ガいらもみ、紅葉セルかへで類なゝかまど類ナドノ古色蒼然タル樹枝ヲ採集スルニ會セリ試ミニ問ヘバ東都ニ送り都人ノ插花ノ料ニ供スルナリト即チ見ル東都少數ノ金屋ノ榮花ノ爲メ老樹ガ幾十年ヲ費シテ形成セルモノ遠慮ナク伐採セラレ古來安全ニ生育シ來ル森林ノ樹木ハ其創傷ノタメ餘生ヲ短縮セシメラレツ、アルヲ、然ルニ學界ノ走狗タル多クノ採集家ガ求ムル片葉斷枝ハ官憲ノ嚴重ナル監視ノ下ニ一々繁雜ナル許可ヲ受クルニアラザレバ之ヲ採取スル能ハザルハ今日ノ狀態ナル文化ノ世程矛盾多キハナシ序ニ一言ス秋冬ニ及ンデ多クノ高山生ニテ夏期採集禁止ノ種類ガ陸續トシテ都會ノ栽培家ノ手ニ入ルハ如何ナル順序ヲ經如何様ノ權利アルモノガ採集送致スルモノナルヤ是レ吾人ノ不可解トスル所ナリ

マタ現在ニ於ケル我國ノ植物保護ノ狀況ヲ概見スルニ其方針極メテ消極的ニシテ(外國ノ事情ヤ先例ハ之ヲ知ラザレ共)積極的ニ保護ノ方法ヲ講ジタル例甚ダ鮮キニ似タリ、即チ各地ニ於ケル保護ノ跡ヲ尋ヌルニ皆是表面的ナリ、消極的ナリ、斯ノ如ク消極的ナル手段方法ハ決シテ唯一無二ナル良法ニ非ズ宜シク更ニ積極的ニ保護ヲ加フベキナリ是正ニ焦眉ノ急ニ迫レル問題ナリ、然ラザレバ其努力ノ結果ハ却ツテ目的ニ背馳スルニ至ラン、昨夏余ハ信州八ヶ嶽ニ登リ理學士濱田和雄君ガ個人的企圖トシテこまかくさノ積極的保護ニ成功シタルヲ目睹シテ一層コノ感ヲ深クセリ、此ノ活キタル一事實ニ就テ見ルモ珍奇植物ノ如キハ消極的ニ保護ヲ加フト同時ニ大イニ積極的ニモ愛護シテ其増殖ヲ圖リ其繁茂スルヲ待ツテ之ヲ一般ニ解放シ純學術的ナラザルマデモ學術的研究ヲ事トスル公衆ノ用ニ供スルコトハ蓋シ文化ヲ高唱シ學術討究ノ機會均等ノ叫ビ喧ビスシキ當代ニ於テ當然行ハルベキ方法ナリト信ゼザルヲ得ザルナリマタ各地ニ於テハ採集禁止植物ヲ有スルヲ以テ其ノ地ノ郷土の誇リナルガ如ク信ジ徒ニ他ニ模倣シ競争的ニ消極的保護ヲナスノ要ナキナリ、一昨年ノ大平洋會議ノ席上生物保護ヲ某國ニ慫慂セントシ其方針ヲ後ヨリ議スベク決議シタル如キ蓋シ消極的保護論者ノ缺陷ヲ遺憾ナク公開シタルモノニシテ余ハ心中彼等ハ保護ノ爲保護ヲナス歟ノ感ヲ起セリ知ラズ世ノ識者ハ其何レニ與セントスルカ